

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を見直し、地域密着型サービスの視点を加えた理念を作り上げている。	○	理念を見直し職員は周知しているが、今後とも家族や地域の方々に認識して頂けるよう努力して行きたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はユニット会議等で唱和し、目に付くところに掲示し、実践に向けて取り組んでいる。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域密着型サービスとしての理念の変更に伴い、家族や地域の方々には十分に理解を得られていない。	○	今後、家族会や、運営推進会議において、理解して頂けるよう努力する。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に加入し、地域行事に参加している。また、近所の商店を利用したり散歩したりして顔なじみの関係を築いている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、盆踊りや獅子舞等はホームまで来ていただいたり、近隣の神社の祭りに参加し地域の人々との交流に努めている。また、市内のグループホームとも共同で「ふくしまつり」に参加したりし交流を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「ふくしまつり」で、もっと多くの地域の方々にグループホームを知って頂くために、介護保険制度やパンフレットの配布を行い、情報提供に努めている。	○	今後は、学習会を開いたりし、地域の高齢者のケアサービスの向上に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員の意見をもとめ話し合いながら記入することで自己を意識する事ができ、グループホームの取り組みべき点等も確認できた。 昨年の外部評価後は会議で結果を報告し改善に取り組んだ。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の状況報告、行事報告、職員の勉強会参加や取組を、地域の方々に説明し、意見等を聞き参考にしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宮若市内のグループホームで会を作り、その会に市の職員にも参加を呼びかけ、話をお聞きしたり、意見交換をしサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対象となるケースはないが、今後必要となりうる場合もあるので、勉強会に出席したり、資料を用意したりしている。	○	勉強会等でもっと深く理解出来る様にしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職員の周知、徹底に努めている。 勉強会に参加し防止に努めている。	○	職員間でも常々話し合い、虐待が見過ごされることがないように気をつけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に時間をかけ、事例を含め家族と話し合い「重要事項説明書」・「重度化に係る指針」等を基に十分な説明を行い、署名・押印を頂いている。 また、解約に関しては、「入居契約書」を基にご家族と十分に話し合い対応している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者も参加して頂き、意見が言える機会を設けている。また、職員も常に入居者の意見を聞き、言葉や態度から思いを察する努力をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、訪問時や家族会、敬老会などの行事の際に報告している。可能な方には月1回個別に話し合いの場を設けるように働きかけている。 金銭管理は利用料と共に1ヶ月に1度送付し、訪問時に説明し捺印を頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口を明記し、入居契約時に説明している。また、玄関には目安箱を設置している。 面会時に意見等があれば、ユニット会議で検討を図っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議やユニット会議を行い、職員が自発的に意見を述べやすい場を提供している。また、年に2回自己評価シート、個別面接を行い職員の意見を聞く機会を設けている。	○ 職員との懇親会の開催や、意見交換の場を増やして行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者やケアマネージャーは通常のシフトに入っておらず、個別の対応(買物・通院等)や、職員の急病時などにも対応出来る様な体制がとれている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者を出さないように日頃より職員と話し合う場を設けたり、安定した生活が送れるように支援している。 ユニット間の移動は最小限に抑えているが、日頃より他のユニット間の交流を図り移動しても支障のない様努めている。	○ 職員の報酬に反映できるよう、国や行政に見直していただける様に働きかけていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用に当っては、性別・年齢などの条件は設けていない。 資格取得希望者には勤務の調整を図ったり、研修等に参加出来る様に配慮し、自己能力の開発が出来る様支援している。	
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	管理者は人権問題地域懇談会等に参加し、人権教育・啓発活動に取り組み、職員に通達している。	
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の勉強会や交流会等に交代で参加し、それらの報告は、書面で回覧、ユニット会議で発表したりしている。	○ 勉強会等に出来るだけ参加し、自己研鑽が出来る様にしている。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加するとともに、宮若市グループホームで会を発足し、ふくしまつり参加や勉強会の計画など、横のつながりを深めグループホームの質の向上に努めている。	
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休み時間確保のために職員に声かけを行っている。 年に数回の親睦会を図り、気分転換が出来る様努めている。	○ 十分な休憩場所の確保が出来ていないため、今後環境づくりに取り組みたい。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己評価シートや個別面接等を行い、職員とコミュニケーションを図り、向上心を持って働けるよう努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前より自宅や病院に出向き、本人・家族・ケースワーカー等に話をお聞きし情報を提供して頂き、不安や、求めていることを把握し安心して入居出来るよう心がけている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談内容を十分に伺い、どのような支援が必要なのか、事業所としてはどのような対応が出来るのか話し合っている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容のアセスメントを十分に行い、その方にあったサービスを見極め、必要に応じて他施設や医療機関との連携を図っている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者やケアマネが自宅等に訪問したり、ホーム見学を行っていただき、場の雰囲気に馴染めるように工夫し、本人や家族が納得した上で入居して頂けるように努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に会話をしながら食器拭きや洗濯物たたみを行い、レクリエーションで一緒に歌を唄ったり、踊りを踊ったりしている。ドライブ等の外出で、その時々季節感を味わい楽しい時間を過ごしている。また、以前自宅でされていたように、季節ごとに梅干・漬物・らっきょうを漬けたり、野菜や花を育てたり、入居者に教えてもらいながら職員も共同で行い、支えあう関係を築いている。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と話し合う機会を多く持ち、情報交換を密に行い、本人を協力して支援する体制をとっている。	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との係りをもつ機会を増やすために、ホームでの行事に出席していただくよう案内したり、一緒に外出や外食をするよう勧めたりしている。また、これまでの本人と家族の関係を考慮した上で支援出来る様努めている。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店に買物にいたり、美容室にお連れしたりしている。本人に知人が尋ねてこられた時は、楽しい時間を過ごして頂けるよう支援している。	
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の座席を、孤立しないように配慮したり、ご夫婦で入居されている方には一緒に食事を摂っていただけるよう配慮している。また、食事やレクリエーション等の際は、職員が間に入り入居者同士が円滑にコミュニケーションを取れるよう努めている。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されている方は、時折お見舞いに行ったり、家族と連絡を取りどういった状況か把握するように心がけている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	より多くの情報を家族や関係者から提供して頂き、日々の係りの中で声かけし、ゆっくりと話しながら把握するよう努めている。 言葉にしづらい思いを、行動や表情から本人の視点に立って理解するように努めている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活の場に出向き、本人やご家族等から話を聞き、これまでの暮らし方の把握に努めている。また、入居後も会話の中で情報を得るようにしている。	○ ご家族の面会のない方や、意思疎通の困難な方は難しいが、日々の生活の中で理解していくように努めたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の心身状態や生活のリズムを把握し、出来ることは能力を生かせるように、出来ないところは援助をおこなえるよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、アセスメントを基に職員間で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行いその人らしく暮らせるように介護計画を作成している。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを行っている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人・家族の要望を取り入れ職員と話し合い新たな介護計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動、表情などの記録については細かく記入されている。その情報を職員間で共有しながら対応を考え、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	内科・歯科は往診体制をとり、医師は入居者の健康状態を把握し緊急時にも対応出来る様な体制が整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月2回程度ボランティア訪問を依頼している。 また、消防署に依頼し、避難訓練を行っている。 ご入居者されている方の中には、以前住んであった地域の老人会に加入され、知人の訪問も度々ある。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望するかかりつけ医に受診したり、事業所の協力医の訪問診療や訪問歯科を利用している。 地域の他事業所のケアマネと交流を図っている。	○	地域のケアマネとグループホームのケアマネで交流を図りたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働はできていない。	○	今後、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望を大切に、適切な医療が受けられるように支援している。 事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関に専門医がおり、指示や助言をもらっている。また、専門医ではないが訪問診療の医師も認知症に詳しい。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を3名配置しており、常に入居者の健康状態や状況に応じた支援が行えるようにしている。医師や看護師には24時間、相談・助言・対応が行える体制をとっている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者と常に情報交換し、また家族等とも相談しながら、対応可能な段階でなるべく早く退院出来るように話あっている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」のマニュアルを作成し、入居時に家族に説明を行っている。本人・家族・職員・医師と協議のうえ十分に話し合い、段階に応じてその都度意思確認を行っている。	○	常に本人・家族にとって最良な方法を考えていきたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切に家族と話し合い、医師、職員が連携を取りながら安心して納得した最後が迎えられるように、随時意志を確認しながら取り組んでいる。急変した場合は、すぐに対応して頂けるように医療機関とも密に連携を図り対応している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしが損なわれないように、十分な情報交換を行いダメージを防ぐよう努めたい。	○	そのようになった場合は、十分な情報を提供出来る様していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議等で、日々職員に徹底を促し、個人の尊厳を重視した介護を行うよう努めている。 また、個人情報は他者に触れないよう棚等に収納している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の能力に応じて声かけをし、希望に沿うように支援している。 意思表示が困難な入居者には表情や動作で希望が組みとれるよう努めている。	○ ゆっくり係り、自己決定が出来る様に支援して行きたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決まっているが、入居者の体調や気持ちに配慮し、個々の希望に沿った過ごし方ができるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望される美容室にお連れしたり、職員がヘアカラーをしたりしている。また、入浴後には化粧水をつけたり、髪にオイルをつけたりしている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は会話しながら入居者と一緒に同じもの食べ、準備や片付けも出来る限り手伝っていただくようにしている。時には入居者に好みのものを聞き、メニューを立てたりしている。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的な飲酒や喫煙には応じていないが、行事などの際は白酒や梅酒などをお出ししている。(本人からの飲酒・喫煙の要望はない) また、入居者の希望にて、お菓子等の買物に出かけ好みのものを購入して頂くよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、個人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ本人希望にあわせた支援を行うようにしているが、本人からの要望は今のところない。	○	曜日が決まっているので希望があれば意向にそうよう心がけたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は決まっておらず、個人の生活習慣やその時々状況に応じた支援をしている。日中も個人の状況に合わせて支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の情報で本人の趣味や役割を見つけ、カラオケやキーボード、裁縫など個人にあった楽しみを支援している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月2回の移動パン屋を利用し、好きなものを選んでいただきご自分で支払いをして頂いている。また、事前に家族様よりお金を預かり、食事や買物が出来る様支援している。能力のある方に付いては、自分で管理され使って頂いている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月間行事は決めているが、その日の入居者の健康状態や気候に応じての外出は日常的に行っている。時にはおやつを食べにファミリーレストランに行くこともある。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	夕方からお弁当をもって虫を見に行ったり、お盆に納骨堂にお参りに行ったりしている。家族の協力が得られる方には外食の機会を設けて頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される場合は電話を使用していただいている。また、本人が利用できない場合は職員が代行して電話している。手紙についても必要時に支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には入居者の居室で、お茶を飲みながらゆっくりくつろいで頂けるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、ユニット会議等で確認し、常に考え行動している。また、状況に応じた対応策を家族等と話し合っている。	○	今後も理解を深め、考え行動して行きたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の方針としては玄関等の鍵はかけないケアを行っている。入居者に対する見守りを重視し、安全面に配慮し開放的な環境作りに努めている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の見守りが出来る場所で、安全に配慮しながら状況を確認している。夜間帯もトイレや居室が見渡せる位置で勤務している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に合わせて対応を行っている。危険と思われる物品については職員間で厳重に注意し管理・保管している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成し、周知徹底している。事故やヒヤリハットの報告書を保管し、それを活用して再発防止に努めている。	○	職員間で常に話し合い、状況を判断し事故につながらないように取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の対応マニュアルは用意してある。応急手当や初期対応の訓練は定期的には行えていない。	○	救急救命法の学習や訓練を定期的に行っていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「災害時マニュアル」を作成し、定期的な訓練を行い、近隣の住民に協力要請をしている。また、災害時に備え食料品や飲料水などを常備している。(かんずめ・水・カセットコンロ・ろうそく・ラジオ等)		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時には家族に説明しているが、その時々々の状態に合わせて、随時説明し対応を図っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、入居者の体調変化に気をつけている。異常時は医師や看護師の指示を仰いでいる。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイル、服薬チェック表を作成し、職員は十分に注意・確認出来る様になっている。病状に変化があるときは看護師に連絡し医師の指示を仰ぐようにしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく自然排便が出来る様に、水分量や食材やメニューの工夫に心がけている。また、散歩や身体を動かす機会を設けている。 服薬については、個々の状態に合わせて医師と相談のうえ使用している。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科衛生士を配置しており、毎食後口腔ケアを実施している。また職員にも口腔ケアの研修を行っている。月に2回訪問歯科診療を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算を行い、摂取量や栄養バランス等に配慮したメニュー作りをしている。また、個人の状態により、水分量やきざみ・ミキサー食に対応している。個人の嗜好に関しては入居時に本人・家族より情報の提供をいただき対応している。	
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、その予防と対策に努めている。	○ 予防と対策に努めているが、常に勉強し、防止に努めたい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士を配置し、衛生管理に努めている。ふきんやまな板は毎日消毒したり、チェックシートで管理している。食材は四季折々の新鮮なものを使用、日付や在庫管理の徹底を図っている。	○ 常に衛生を保つように努めているが、日々注意を払いたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花々を植えたり、季節に応じた飾りつけを行い、暖かい雰囲気をだせるよう工夫している。	
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンリビングと対面式を採用し、匂いや音が聞こえるようにしている。玄関やリビングには、七夕飾りやお雛様を飾り季節を感じられるよう工夫している。観葉植物や季節の花を飾っている。また、リビングではテレビを点けっぱなしにしない様、音には配慮している。	
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	タタミコーナーを設けており、横になって寛がれたりされている。また、ソファコーナーとリビングにテレビを設置し、お好きな場所で寛ぐ事が出来る様に工夫している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には何も備えず、入居者が居心地よく過ごして頂けるよう使い慣れた馴染みの家具や、仏壇等を持ってきていただき、以前と変わらない雰囲気作りをしている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間喚起システムを採用している。 日に何度か空気の入替えをし、温度計を設置して温度調節を図っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー設計である。共有部分や居室内、浴室、浴槽随所に手すりを設置し、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレのドアは居室のドアと違う色にし、目線の位置に「便所」と表記している。居室の表札にもそれぞれ花や果物の絵を描いたり、似顔絵等でわかり易くしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇やプランターを設け、入居者と職員と一緒に季節ごとに植え替えを行っている。 また、玄関前の駐車場では地域の行事であるみこしや盆踊りなども行われ、入居者も一緒に参加され楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームサルビアは宮若市の中心街に位置し、市役所や商店街など昔なじみの建物をみて暮らせると環境にあります。入居者一人ひとりの個性を尊重し、いままでと変わることなく毎日が過ごせる様に取り組んでおります。入居者の健康管理に配慮し、月6回の往診や回診、月2回の訪問歯科診療などを行っております。また、栄養士による栄養管理も行っております。職員も歯科衛生士1名、看護師(正・准)4名、介護福祉士3名、保育士1名、栄養士1名、ヘルパー2級7名等有資格者を配置しております。入居者や家族が「ここに来てよかった」と心から言っていたいただける様な施設を目指して、介護スタッフの質の向上に努めて行きたいと思っております。